

「花尾小学校のおおひらししまいおど大平獅子舞踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島市立花尾小学校

2 学年・人数

1年生から6年生（計27名）

3 日時・場所

(1) 練習日時・場所

令和4年4月22日，5月6・10・14日

総合的な学習の時間（本校体育館・校庭）

(2) 発表の日時・場所

令和4年5月22日 花尾小学校大運動会（本校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

「大平獅子舞踊り（おおひらししまいおどり）」

(2) 由来

大平獅子舞踊りは、1592年島津義弘公が朝鮮出兵するときに兵の士気を高める為に踊ったとされ、獅子との戦いを描いた狂言調の踊りは、五穀豊穡、無病息災を祈願する郷土芸能である。

終戦後、しばらく踊りが途絶えていた時期もあったが、昭和40年に復活し、大平自治会の皆さんや文化財少年団によって、大切に受け継がれている。

平成17年に鹿児島市の無形民俗文化財に指定された。

(3) 構成等

この獅子舞は前踊りと後踊りがあり、前踊りは手踊り一つと三尺棒踊り、鎌踊り、六尺棒踊りからなり、後踊りは獅子舞踊りである。

踊りはまず、場所取りの仮面の人が出て行き、その後で小学生が踊る「はんやれ」が始まる。前踊りは、田植え歌に合わせて踊り、椿の木に御幣を下げたものをたてて歌う。後踊りの獅子舞は、獅子と捕り手の格闘劇があり、めでたく獅子を討ち取って終わりとなる。素朴で民俗学的に価値の高いものである。

5 保存会や地域との連携の具体

本校では、「岩戸疱瘡踊り」の伝承活動と同様に「大平獅子舞踊り」の伝承活動に取り組んでいる。総合的な学習の時間に地域の方と関わりながら、その歴史や由来、踊りの所作の意味、思いや願いを調べて報告したり、実際に地域との運動会（5月）で披露したりするなど、探究的に学んでいる。

講師は大平自治会の大平獅子舞保存会に依頼し、道具や踊り方について学び、運動会での発表に向けて、探究活動を4回実施した。

なお、踊りに必要な衣装や用具（木刀等）は保存会から借用している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら大平獅子舞踊りを継承していくために、「総合的な学習の時間」の探究活動として位置付けた。そのため、単に「大平獅子舞踊り」の踊り方を練習するのではなく、由来や歴史、所作や衣装、用具の意味等についても追究するように計画を立てた。

本学習では、3・4年生が手踊りである「はんやれ」を習い、現5・6年生は剣（木刀）を使った「三尺棒踊り（4人1組）」を習っている。1年生は、体育の時間に子獅子に扮した踊りを習う。コロナ禍で3年ぶりの実施となったが、6年生は3年生の時に経験があるため、5年生以下の児童に教えさせた。

7 取組の様子



【4月22日 はんやれの練習】



【4月22日 三尺棒踊りの練習】



【5月22日 運動会での発表①】



【5月22日 運動会での発表②】

8 参加児童・保存会・教職員の感想・意見

- お父さんもおじいちゃんもやってきた獅子舞踊りを私もすることができたのがうれしかった。【3年生児童】
- 久しぶりの踊りで忘れていたところもあったけれど体が覚えていて自然と動くことができた。【6年生児童】
- コロナ禍で保存会としての活動も制限されていたが、大平の伝統である踊りを子供たちに教えることで、私たち自身も踊りを思い出すいい機会になった。【保存会】
- 地域の方々が熱心に指導してくださり、日々成長していく児童の上達の速さに驚かされた。学校と地域が一体となることができる大切な活動なのでこれからも続けていきたい。【教職員】